

県議会議員

あらい、絹世の磯っ子レポート

県政をもっと身近に



<http://www.araikinuyo.jp>

帰宅支援、医療施設耐震化、富士山噴火時の防災 神奈川県による本年度の災害事前対策の強化事業

自然に恵まれる一方、地震、火山噴火、台風など災害が多い日本は、21世紀に「地球環境問題と災害への対策」で先導的役割を果たしていくことが期待されています。国立環境研究所などの研究機関の予測では「CO₂など温室効果ガスの削減対策をとらなければ、今世紀末の日本の砂浜は温暖化による水深の上昇で最大85%消失する」とされています。神奈川県では西湘海岸(大磯~小田原)で浸食被害が深刻化しており、県と相模湾沿岸の13市町が本格的な砂浜の復元・保全には国の直轄事業が不可欠と要望してきましたが、最近「2014年度から国が砂浜復元・保全対策に着手する見通しとなった」ことが報道されました。他方、神奈川県では「災害に強いまちづくり」の一環として、本年度当初予算事業の中に、災害時の帰宅支援、医療施設の耐震化、富士山噴火時の防災対策を強化するための新規事業が盛り込まれています。

【帰宅困難者対策事業推進】 東日本大震災の際、首都圏では交通手段が停まってしまったため歩いて帰宅する人があふれて混乱しました。この反省から当面現地にとどまる方が望ましいとの方針が打ち出されましたが、介護や子供の世話などで帰宅が必要な場合があります。このため九都県市首脳会議の委員会では災害時帰宅支援ステーションの設置を推進し、水道水提供、トイレ使用、道路情報提供、休憩のできる場を徐々に増やしています。神奈川県では3月に県理容生活衛生同業組合(約2650店)と協定を結ぶなどし、県内ではコンビニ、ガソリンスタンド、日産の販売店なども含め約7800カ所のステーションが確保されています。今年度予算ではこの施設がすぐ分かるよう店頭に掲げてもらう幟旗(長さ1・8m)を3000本作る計画(ほかに横浜、川崎、相模原各市でも合計約5000本)。県内合計で約8000本が見込まれています。

【医療施設耐震化整備事業】 これまで国の基金を利用するなどして災害拠点病院などの耐震化事業を進めてきましたが、本年度から県は耐震化されていないすべての病院を対象に補助金助成の事業を始める計画。10カ所を予定。

【富士山火山防災対策】 日本を象徴する富士山ですが、活火山としての噴火とこの災害も予想され、山梨、静岡、神奈川県では知事サミット、2012年度設置の富士山火山防災対策協議会で取り組みを進めていますが、今年10月19日には初の3県合同防災訓練を行う計画です。1707年の宝永大噴火と同じ規模、気象条件で噴火した場合、神奈川県内では最大30分の火山灰が降り積もることが予測されています。



コレが言いたい!

東日本大震災という未曾有の大災害をはじめ、地震、台風、局地的な豪雨、豪雪等による災害が各地で頻発しています。自治体や国が行うハードの整備による「災害に強いまちづくり」を進めていくと共に、日頃から地域の皆さんが防災に対する意識と知識を備える必要があると考えます。

今月の
ひと言

「まなびや基金」に寄附を頂いた方々へ感謝の気持ちを込めて県立高校生たちによるビデオメッセージ(「学び舎から感謝をこめて~神奈川県恋するフォーチュンクッキー第2弾まなびや基金Ver.~」)が作成されました。



磯子あれ？これ？



疎開道路

疎開道路は、空襲により火災が発生した際に延焼を防ぐ目的で建築物を撤去し、軍用緊急車両や貨物車両用、さらに空襲から避難するための道路として敷設・拡幅されたものです。当時の防空法により県が疎開委員会の決定にもとづき防空空地を指定し、指定された地域の住民・事業者には立ち退きを命じ、住民は短期間ののちに立ち退かなければなりません。

横浜市内に現在も疎開道路として名前が残っているのは磯子区だけで、滝頭疎開道路（湘南信用金庫/中浜～市電保存館/丸山二丁目）、根岸疎開道路（プールセンター前/原町～根岸橋/馬場町）、坂下疎開道路（滝頭旧交通会館/滝頭二丁目～坂下公園/坂下町）、磯子橋疎開道路（磯子橋/下町～根岸小学校/西町）、個称なし疎開道路（磯子橋/中浜～北磯子団地/久木町）と5本があります。

磯子区の疎開道路建設の目的は、横浜市内中心部から横須賀軍港まで物資の輸送経路の要が八幡橋周辺であり、爆撃等により八幡橋が使用不能の場合、バイパスとして磯子橋・坂下橋・根岸橋を使用することだったのでないかと当時を知る方は語っています。



活動報告

3月25日に第一回定例会が閉会しました。

所属する厚生常任委員会では、下記の通り質疑を行い意見と要望を申し述べました。

■「在宅医療について」在宅療養支援診療所の現状は一定程度明らかになりつつあるが、今後さらに後方支援病院の状況なども含めた現状や課題の把握を進め、在宅医療の推進に当たり何が課題であるのかをきちんと明らかにしていく必要がある。その上で平成26年度当初予算案に計上した事業などにしっかりと取り組み、市町村と連携して本県の在宅医療の充実を図っていくことを要望。

■「県立汐見台病院のあり方について」県立汐見台病院の沿革に鑑み、現在まで信頼関係のもと運営を行っている指定管理者の県医師会と丁寧な協議を行いながら平成26年中の結論に向け対応を行って頂きたい。また県としては「総合病院としての機能をこの地域に残す」と答弁したことをしっかりと守り、現在の医療水準を十分担保しながら継続して総合病院としての機能を残すよう協議を進めていくことを強く要望。



3月31日(月)開通された東京湾岸道路(国道357号根岸地区)の現地見学会が3月22日(土)に開催されました。

国道357号の開通により、地元の皆さんが以前から要望されていたJR根岸駅前から八幡橋付近の産業道路の慢性的な渋滞が緩和されます。

あらい絹世プロフィール

- 昭和43年3月8日 横浜市磯子区生まれ
- 横浜雙葉小・中・高等学校卒業
- 明治学院大学社会学部社会福祉学科卒業
- 日商岩井(株) / (株)メタルワン
- 自民党かながわ政治大学12期生
- 平成23年4月 県議会議員初当選
- 厚生常任委員/社会問題対策特別委員
- 自民党神奈川県議団副団長

